

第14回学術集会 開催のご報告 (巻頭言)

第14回学術集会 大会長
医療福祉専門学校緑生館
倉富 眞

テーマ 『町で生きる人々』 ～認知症を抱える人とともに暮らす～

全国地域作業療法研究大会 第14回学術大会を平成21年2月28日(土)、3月1日(日)の2日間、佐賀県作業療法士会が担当してサンメッセ鳥栖で開催した。参加者は141名で内訳は会員101名、非会員39名、学生1名であった。公開講座には行政職を中心に16名の参加があった。

今学術集会は『町で生きる人々』をテーマに掲げ、認知症を抱える人とともに暮らすために作業療法士としてどのような取り組みをしていけばよいのかを検証するため、認知症に特化した大会とした。特別講演では

「認知症になっても心は生きている」というテーマで当事者の江島豊彦氏から認知症と診断されるまでの経緯や認知症という病気に罹ってしまったことからくる絶望と挫折、その後の自分の居場所を見つけ、自分の体験を語ることで社会貢献したいという内容を講演して頂いた。同時に若年認知症オアシス虹の会の管理者 中島七海氏より認知症者からの聞き取りを基にした、認知



症者の声にならない本音を代弁した講演であった。認知症者の実態がよく理解できる感動した内容であった。教育講演は熊本大学大学院医学薬学研究部脳機能病態学分野教授 池田学先生より最新の認知症治療の現状を踏まえて、作業療法士は専門職として認知症の病態にあった支援をすることが重要であり、期待しているエールを送って頂いた。シンポジウムでは認知症者と地域で暮らす為の取り組みについて、池田武俊氏からは行政の立場から、森久美子氏からは家族会の立場から、山下徳子氏からは報道関係者の立場から、比留間ちづ子氏からは若年性認知症支援の立場から話していただいた。このシンポジウムで明らかになったことは作業療法士が地域で認知症の治療や支援に関与していないという残念な事実であった。セミナーⅠでは「初期の認知症者と地域で暮らす為の連携」について、セミナーⅡでは「作業療法士が考える、中～重度認知症者と地域で暮らす為の支援」について、時代の流れに沿った作業療法や作業療法士の役割について踏み込んだ内容であった。また、回収したアンケート調査(結果別途記載)でも、企画・展開に関して良かったという回答が大多数を占めており、参加者のニーズに合ったものになったと考えられる。

最後に開催にあたりご理解・ご支援を戴いた会員、講師各位、参加者、理事をはじめとする関係諸者に厚く御礼を申し上げます。また、準備委員、運営委員として携った県士会員の皆様にも深く謝意を申し上げます。

全国地域作業療法研究大会 第14回学術集会(佐賀)
アンケート集計結果報告書

第14回全国地域作業療法研究大会
事務局長 川辺 千津子

I. あなたの所属について該当する箇所に○を付けてください。

1. 一般病院	27 名
2. 精神科病院	8 名
3. 老人保健施設	9 名
4. 認知症デイケア	7 名
5. 通所リハ	8 名
6. 通所介護	2 名
7. 訪問看護ステーション	4 名
8. 学生	0 名
9. その他	7 名
10.無記名	1 名

II. あなたの経験年数について該当する箇所に○を付けてください。

1. 1から5年	35 名
2. 6から10年	22 名
3. 11年以上	9 名
4. その他	2 名
5.無記名	1 名

III. あなたの職種について該当する箇所に○を付けてください。

1. OT	68 名
2. PT	0 名
3. ST	1 名
4. 看護師	0 名
5. 保健師	0 名
6. ケアマネージャー	0 名
7. その他	0 名
8.無記名	1 名

IV. セミナー1「初期の認知症者と地域で暮らす為の連携とは」について、該当する箇所に○を付けてください。
また、長所(よかったところ)短所(悪かったところ)についてお答えください。

1. 良い	38 名
2. やや良い	21 名
3. 普通	5 名
4. やや悪い	0 名
5. 悪い	0 名

【長所】

- ・「汝自身を知れ」という部分が大切だったと改めて感じた。興味チェックリストが大切だと感じた。
- ・OTが地域のどの部分と連携をとれば情報伝達がうまく進めるかの方法がわかりやすかった。
- ・OT専門職として認知症の方との接し方やどこに焦点を当ててアプローチしていくかなど具体的な例も多く分かりやすかった。また自分の行動を振り返る良い機会となった。

- ・OTとして対象者に何をしたらよいか、改めていましている仕事を振り返ることができた。
- ・OTらしさがよくわかって勉強になった。
- ・あらゆる立場からの意見を聞くことができ地域での働きかけについても知ることが出来たので良かった。
- ・いろいろな職種や立場の方から話を聞いた。現場の具体的な話が聞いた。
- ・色々な立場からの意見が聞け、現在自分が感じていることを再確認できた。今後の働きかけに自信をもち取り組みたいと思った。
- ・同じような悩みを共感出来たことや股その対応、経験談を聞いたところ、また重要性を再確認出来た面。
- ・各機関の連携の重要性が理解できた。
- ・家族会の方のお話を聞き、本当に必要なサービス、そのための働きかけなどを聞くことができた。
- ・家族サイドの生の声が聞けたことは良かった。「作業」を通しての葉やら着かけ葉すごいし、自分もこういうOTでありたいと強く感じた。
- ・家族の方の思いが聞けた。臨床の現状の問題をどう変えていくかという具体的な方法と熱意が伝わった。作業・種目の表はとても参考になったので、自分も整理したい。
- ・家族の方の話が聞けてよかった。
- ・家族の声が聞けたこと、また他のOTの先生方の口演でもっと出来ることはたくさんあり、しなきゃいけないと気づかされた。
- ・家族の視点というのを実感した。地域で取り組む数々のシステムを知ることが出来た。
- ・家族の話を直接聞けて、患者だけでなく、家族も地域も含めて在宅生活を考えていかないと再確認した。
- ・北九州での地域全体の取り組み、CM、家族、OT いろいろな立場からの話が聞いた。
- ・現在の臨床において、十分な作業活動まで行えておらず、もっとOTを楽しんでいきたいと感じた。
- ・御家族の生の声が聞けたこと、またOTに望むことなどが聞けてよかった。
- ・作業に焦点をあてて、その方のできるところを引き出していくことが分かった。
- ・様々なアイデア・工夫で取り組まれている話を聞き、大変勉強になりました。『本人が主体』と当たり前の事ですが、なかなか私自身できていないので、改めて大切さを実感できました。
- ・様々な視点からの話が聞け、地域との連携の重要性を確認できた。
- ・様々な視点からの話が聞けてよかったです(特に家族の方や保健師)。
- ・実際に家族が認知症になった高田さんの話が聞けて大変良かった。
- ・実際に家族の方々が抱える思いを聞くことができてよかった。また他の市町村の社会資源が聞けて参考になった。
- ・視点や考えがそれぞれの立場で異なると思う。家族の望まれていることはOTの1人として再度、気づかされる、考えさせられ、今後の自分の課題点ともできる機会になりよかった。
- ・自分自身も御家族や地域の方に対して介護教室を行っており参考になることが多かった。
- ・自分の住む、または働いている地域がどのような取り組みを持っているか興味をもった。
- ・初期の認知症者とのかわりが勉強になった。
- ・知らない情報がたくさんあり、勉強になった。
- ・事例を通してわかりやすく勉強になった。
- ・スライドの写真が見れなかったけど、手元資料で理解できた。
- ・それぞれの立場からの取り組みを知り参考になった。
- ・それぞれの分野、家族の話が聞けてよかった。特に対象者をしっかり把握し、他者に伝えていくという大切さを感じた。
- ・高田先生、ご家族の立場からの話が聞けてよかった。村井先生の話からOTとして現場で行っていることをまとめて言葉にする大切さを感じた。
- ・高田先生は実際に奥様を介護されその経験を生かし世話人の代表をされているため専門職として家族の意見としてたくさんのことが聞かれ勉強になりました。また地域における方々を巻き込みながらアプローチしていく必要性があると学びました。
- ・他職種の方々からの話が聞けて良かった。また、初期の認知症の方に対してのOTの関わり、そこだけで終わ



るのではなく、きちんと他に繋げていく大切さが患者を通しての話でよく分かった。介護者であるご家族の声が聞けたこと。

- ・他職種や認知症を持つ方の家族の参加があったのでいろいろな視点から考えることが出来る機会となった。
- ・地域包括、家族の会など各分野の視点からの話が聞けて良かった。
- ・地域包括支援センターなど、地域での取り組みについて自分自身知識不足のところがあり、今回、OTだけでなく、様々な立場の視点から教えて頂きとても参考になりました。
- ・できる能力を発揮できる場。
- ・認知症に対して OT ができること、すべきこと、他職種とのチームの中で役割、位置づけという点から理解、考えることができた。
- ・認知症の御家族からの視点を知ることができた。地域で共に暮らすためには地域の民生委員や周囲の人たちとの連携が重要であることが分かった。
- ・認知症の初期の対応、作業療法の内容、役割を具体的にすることができ、認知症についての医療関係者の認識が高まらなると早期発見、介入につながりにくいと感じた。
- ・勉強になった。
- ・保健師や家族、OT など現場の生の声が聞けて良かったと思います。
- ・本人も不安、家族やヘルパーの気づきをケアマネに伝えるなど様々な発見をいただいた。
- ・まとめて最後に質問する時間がありよかった。OT、介護者、保健師といろいろな視点から認知症へのサポートが見れてよかった。
- ・村井先生が自分たちの仕事でやれることを周囲のスタッフに伝え、発信し続けることが、結果連携へ繋がるということが印象深かった。
- ・村井先生の院内での改革素晴らしかったです。そのための日々の評価の重要性を実感した。地域の民生委員との情報共有の重要性を感じた。
- ・村井先生の視点に共感できた。
- ・村井先生の話が良かった。
- ・連携において考えないといけないところ、視点を学べた。
- ・分かりやすかった。

【短所】

- ・時間内に終わらなかったこと。
- ・時間は延長しないようにした方がよいのでは。
- ・事前にスライドチェックをしておいた方がよかった。
- ・写真がなくて残念でした。
- ・それぞれの先生の話をしっかり聞きたかった。
- ・それぞれの取り組みをつなぐためにそうすればよいのか具体的な方法についてももう少し聞きたかった。
- ・地域包括、前行政の先生に聞きたい事があった。行政は公的な事業として取り組むにはどうしたらよいのか。
- ・認知症事業にOTが参入するたんにはどうしたら良いか？など
- ・やや時間が長かった。すべてだが司会の人は司会で良かったのでは・・と思った。

V. セミナー2「作業療法士が考える、中～重度認知症者と地域で暮らす為の支援」について、該当する箇所には○を付けてください。

1. 良い	32 名
2. やや良い	25 名
3. 普通	11 名
4. やや悪い	0 名
5. 悪い	0 名

【長所】

- ・「心理的安心」について忘れがちです。注意しようと思った。
- ・OT が考えるという実践的な内容であり、臨床に即活かせる内容で良かった。最後のまとめがわかりやすかった。
- ・OTとしての視点を再確認できた。
- ・青木先生の現場での実践～ケアにおけるOTの視点は説得力がありました。

- ・青木先生の失敗談も入っており、とても分かりやすかった。同じOTとして病院と地域の連携や日頃のリハのあり方を考えることが必要だと感じました。
- ・色々な施設があり、デイケアの内容を知ることができた。医療との連携が欠かせないことも強く感じる。
- ・各時期の OT の話が聞けて参考になった。
- ・家族との密な連携、思いを受け止めること、支えていく姿勢を見せる大切さを感じた。
- ・上城先生の「認知症の時期に応じた作業の選択が出来ているか」の言葉に気づきを頂きました。ケアのあり方、共有体験、信頼関係→実務に活かしていきたいキーワードをもらった。ご家族との情報交換についてすごく密にされていてすごいと感じています。
- ・考え方や対応方法なども良かったですが、先生方の行っている取り組みも聞けたので今後の参考になりました。
- ・疑問をもって奮闘している OT が自分以外にもたくさんいることを共感を持って聞けた。
- ・具体的な症例の中で OT として対象者にどう対応して、どう反応があったか、参考になった。
- ・具体的な事例と、取り組みが聞けてよかった。
- ・現場で役立つ意見を聞くことが出来た。
- ・作業療法の支援について事例を挙げわかりやすかった。
- ・現場での実際の取り組みで悩んでいたことがセミナーを通して、これでいいのだと実感し共有できた。
- ・作業療法の大切さをあらためて学ぶことができた。
- ・座長が知りたい部分の質問をしてくれた。
- ・施設毎の様々な取り組み、個別的な対応、関わり大切さを知ることが出来たので良かった。
- ・失敗の事例もあり参考になった。
- ・自分の勉強不足を感じた。
- ・症例中心に発表があり、認知症の方との向き合い方を考え直そうと気付きました。
- ・症例の提示により、具体的な対応、困難さが理解できた。
- ・症例報告を通して、具体的にどのような評価、アプローチをすべきか参考になる点が多かった。
- ・知らない分野の情報を聞くことができた。
- ・事例があり、対応はわかりやすかった。
- ・事例の話を通してわかりやすかった。
- ・事例を通した話のため自分が臨床現場で行っていることを当てはめて考えることが出来たので勉強になった。今、自分が日々行っていることは間違っていないのではと自信がついた。
- ・事例を通して、うまくいった、失敗した例もあり良かった。臨床につなげやすいと感じた。OT がどう関わっていけばいいか、わかりやすかった。
- ・事例を交えていてわかりやすかった。
- ・体験談を聞けて良かった。講師の方々が一生懸命取り組んでいるのが伝わってきた。共感できる場所、新しい考えだと思ったところがあって考えが広がった。
- ・他職種との連携、つながりのよさ。
- ・地域連携の大切さを改めて感じた。
- ・中～重度の認知症への対応やケアが分かった。
- ・どの講師も、日々、試行錯誤しながらOTに取り組んでいることを身に感じさせられた。私もがんばろうと意欲がわいた。
- ・認知症についての説明が具体的であった。
- ・認知症病棟について多く聞けて良かった。活動を行って行くにあたって病棟スタッフとどのように協力し合っているかなど知りたかった。50 から60名という対象者をどのようにみているかなど。
- ・日頃自分が関わる方々と共通することが多くなった。自分自身の振り返りにもなった。同じ年代のOTR が同じように悩みながら頑張っている姿を見て自分もまた頑張ろうと思えた。良い刺激になった。
- ・病棟、デイケア、訪問リハと違う環境でそれぞれの症例について知ることが出来、自分の今の現状に当てはめて考えるととても勉強になった。症例の話は想像しやすくて分かりやすいものでした。



- ・普段、私自身が行っている対応と違う視点や考え方が具体例を交え多く聞けた部分。
- ・訪問、デイサービスについて、OT と家族、OT と CM とのかかわりについてアイデアを頂けた。日頃見落としているところを認識できたので良かった。
- ・訪問リハに関しては地域の中で暮らす方々の支援と密着していると思った。また他職種との関係の大切さを改めて実感しました。
- ・利用者に対し、関わる職種として対 OT して関わる時と、他職種も巻き込んで関わる時には、伝達法・内容などを伝えた「つもり」で終わると本当に危険ということを感じた。
- ・やっていることは同じだな、と共感と自信がもてた。
- ・利用者の残存能力、その人らしさを維持・改善・向上につなげていくためにも、連携を円滑にしていくための具体的な言葉のやり取りは必要と思った。
- ・老健に入所している方に対するアプローチの参考になった。院内デイケアや認知症に対しての不安のアプローチなど良かった。
- ・若い OT が一生懸命取り組んでいてよかった。

【短所】

- ・1人1人もち時間が長すぎた感じがした。間延びしていた。
- ・OT としての関わりに加えて、他職種もどのように本人、家族と関わっているかなど話を加えて欲しかった。
- ・各々の施設・病院からの視点では、中・重度の方々の支援するのに対し、非常に限界があると思いました。
- ・家族の支援について、様々なケースにあてはめられるよう対応の種類、方法を広げ報告があるともっとよかった。
- ・かなり時間が長かった。
- ・時間が短かった。
- ・時間が短かった。もっと詳しく話が聞きたかった。
- ・時間内に進行が終わらなかったこと。
- ・時間は守ってほしい。
- ・質問の時間をもう少しとって他人の意見も聞きたかったです。
- ・事例についてもう少し短くても良かったのでは。
- ・全体を通しての支援のあり方がいま一つ分からなかった。
- ・地域で暮らすための制度やサービスの内容を知りたい。体操や作業、活動内容を知りたい。
- ・地域で暮らすという点から考えると OT の症例発表のようだった気がする。
- ・地域で重度の方が暮らすために、具体的にどうしていったらよいか OT の視点でどう捉えるか深く聞きたかった。
- ・認知症なので事例の方が分かりやすいと思うが、若干内容の偏りも何となく感じた。
- ・発表時間と質疑応答の時間が分かるとよいと思う。
- ・もう少し深い分析が欲しかった。

VI. 特別講演「認知症の本人と家族を理解する～認知症になっても心は生きている～」について、該当する箇所に○を付けてください。

1. 良い	67 名
2. やや良い	1 名
3. 普通	0 名
4. やや悪い	0 名
5. 悪い	0 名

【長所】

- ・江島さんと中島さんの伝えたい思いが胸にしみました。大変感動しました。ありがとうございました。
- ・江島さんの話に感動した。当事者のお話を聞く機会がもっと増えるとよい。
- ・オアシス倶楽部での取り組みの展開を見させてもらい、改めて枠に捕らわれない活動を展開していく必要を感じた。お二人の話に感動しました。
- ・感動した。
- ・感動しました。人の支援に携わる仕事として誇りをもって支えていきたいと思った。

- ・興味を持って聞けた。認知症本人の視点はご本人からの話でした分からないので参考になった。わかっているつもりでいた。
- ・心温まる講演を聴くことができ感動した。当院でも講演していただきたいと思った。
- ・心が動かされ感動した。認知症の受け止め方や対応の仕方が、明日から認知症の患者さん、家族に関わるなかで変わる気がする。
- ・心に訴えかけてくる内容であり、知識としては分かっているでも実際の当事者の思いが聞けた点。
- ・ご本人、サポートする方の貴重な話を聞くことができ良かった。また気持ちを聞くことの重要性を改めて感じた。
- ・ご本人が語る事に耳を傾ける大切さがわかった。本当にその方の心を知ることがどういうことなのか分かった。
- ・ご本人の話が聞けて、色々なことを考えさせられた。どのような状況、立場であっても自分の人生を生きていくことの大切さを改めて教えられた。
- ・支援していく側としてすごく大事なことを気づかせてもらった。
- ・実際にアルツハイマー病の方の講演を聴くのは初めてでしたが、当事者の意見を聞くことで、今後の利用者様のアプローチに大きく役立たされると感じた。本当に思っていることは、このように話して頂く機会を増やして、多くの方々にきいてもらいたいなあと思いました。とても感動しました。
- ・実際に体験された事をご本人様から聞くことで自分自身に置き換えて聞くことが出来、とても貴重な話が聞けて本当に良かった。OTとして出来ることを考える良い機会となった。
- ・実際の患者様の気持ち、思いを進行していく症状と共に生の声での訴えがとても印象に残りました。
- ・実際の体験談を通しての話を聞けてよかった。
- ・若年アルツハイマー病と診断された方の話やまた支援しているオアシスクラブの話を知ることができ本当に良かったです。
- ・若年性認知症の方の本当の気持ちや考えていることを感じる事ができ本当によかったと思う。
- ・当事者、今まさに向き合っている人の話を聞けて感動しました。自分の対応を見直して活かしていきたいと思えます。
- ・当事者からの生の声とその方々を支える活動の実際について知ることができて良かった。
- ・当事者ご本人の言葉で、気持ちがよく伝わってきた。
- ・当事者の意見はなかなか聞くことが出来ないのでも今後も続けてほしいと思います。
- ・当事者の思いを聞くことで、改めて当事者の不安、悲しみを思い知った。聞きとり作業と思いを残す作業の重要性も感じた。
- ・当事者の方の心に触れることができたように感じる。
- ・当事者の方の話が聞けて良かった。
- ・当事者の語る言葉の重みに生きていくということを考えさせられた。
- ・当事者の気持ちを聞くことができよかった。認知症の人のデイケアなどを利用するときに内容に違和感を感じることも多く、デイケアの内容に患者さんの気持ちが反映されてほしい。
- ・当事者の気持ちを直に聞く機会は滅多にないので実体験を聞けてよかった。
- ・当事者の言葉はこころに響くものがあった。この話を胸に日々の業務に取り組みたい。
- ・当事者の言葉を通じて、患者さんの声にも答えていけないといけなさと感じた。
- ・当事者の生の声が聞けた。
- ・当事者の生の声をはじめてききました。いろいろと考えさせられました。
- ・当事者の生の言葉を聞けてよかった。診断が下る前から現在までの心の動きや周囲の支援などが聞けてとても心に響いた。
- ・当事者の話が聞けて良かった。
- ・当事者の話を聞く機会が良かった。感動した。
- ・当事者の話を聞けてよかった。
- ・当事者の話を聞けてよかった。構成が良かった。
- ・とても感動した。江島さん(当事者)の話をもっと多くのOTに知ってほしい。
- ・とても良い話を聞けた。歌に感動した。



- ・とてもわかりやすかった。
- ・認知症ご本人の話がご本人の口からきけたこと。とてもところに響きました。とてもあったかい気持ちになりました。
- ・認知症ご本人の気持ちを聞いて涙がでる思いだった。
- ・認知症の方の気持ちが一番よく伝わり、理解できた。
- ・認知症の方の心の声を聞ける機会は少ないので、とても貴重な体験となった。自分自身気持ちを引き締めて患者様に接してきたいと思った。
- ・認知症の方を心からとらえてあげることの大切さが分かった。
- ・認知症の本人、家族、周囲の方の思いを聞き、自分の臨床でわかっているもできていないことを改める気持ちになった。本人・家族の気持ちを理解して改めて対応していきたい。
- ・認知症本人の話を聴講するのは初めてであった。どのような思いかを感じることができた。中島さんの話、取り組みも刺激を受けた。
- ・本人の気持ちを聞いて改めて今関わっている方とももっと話をしていきたいと思うことが出来た。
- ・本人がどのように感じているのかを学ぶことが出来た。臨床現場に戻り江島さんの話を思い浮かべながらメンバーさんに関わっていききたいと思った。
- ・本人の思いを知ることで周囲の人の気持ちも変わる。
- ・本人の声が聞けたこと。重いがいろいろあるけど誰にもきいてもらえていなかったことが多いこと、など表面的には見えないことをしっかりと引き出し、受け止めることで本人も家族にも理解できて一緒に生活していけるのだと思う。
- ・本人の言葉を直接聞けたことは有意義であった。
- ・本人の生の声が聞けて、思いを感じることができた。
- ・本人の生の声はなかなか聞けないのでとても貴重なお話でした。
- ・本人の話に感動した。それをサポートする支援のあり方や温かさが十分に伝わった。もっと、活動を広げて頑張りたいと思った。
- ・臨床でのつまづきや苦労している状況、家族への思いを聞き、感動した。

【短所】

- ・江島さんが読まれた原稿も抄録だけでなく詳しく見たかった。
- ・奥さんの話も聞きたかった。
- ・家族の抱える苦悩は大きなもの。家族がどうフォローして欲しいか聞きたかった。
- ・ティッシュの準備が必要でした。
- ・理解する大切さは分かるが、そこから具体的にどうしたらよいのかを考えないと変わらない。

VII. 教育講演「認知症治療の現状と認知症を抱える人と地域で暮らす為の視点」について、該当する箇所には○を付けてください。

1. 良い	56 名
2. やや良い	9 名
3. 普通	1 名
4. やや悪い	2 名
5. 悪い	0 名

【長所】

- ・認知症の型と時期に合わせた支援について、日頃の活動を反省する良い機会になった。地域事業(交流)が認知症予防活動として役立つ事が知れて良かった。
- ・Dr の視点と市民からの視点があり良かった。
- ・OT、市民の方双方にわかりやすい内容であった。1人のOTとして何が出来るか、考えさせられ、そのために知識も重要だと感じた。
- ・改めて認知症でも、その原因、種類によって対応が違う、対応法があることを再確認、再学習出来た点。
- ・医師からの話が聞けて良かった。医療は常に新しくなっているので、最新の知識を学べて良かった。
- ・医師の診断方法や誤診しやすいものとの区切りの仕方などとても分かりやすかった。また、認知症=OTの頑張りどころと言って頂き今後もさらに勉強していこうと思った。
- ・医師の立場からOTの存在がどのように大切かということ話を聞いたのでその言葉でモチベーションが上

がった。もっとOTとして出来ることを考えアプローチしていきたい。先生の話聞いたのは2回目だったが、1回目より自分の中に知識が入ってきた気がした。

- ・医師の目線での話でとても分かりやすく興味深かったです。
- ・医者から認知症の現状を聞くことができて勉強になった。
- ・一般市民向けでもありわかりやすかった。
- ・一般の方もいらっしゃる中で認知症について分かりやすく説明がありよかったです。OTとして認知症の関わりを深めていきたいと思った。



- ・今まであいまいになっていた部分がはっきりしたように思う。分かりやすかった。
- ・医療関係者以外の方にも向けた内容で分かりやすかったです。
- ・各タイプ毎に話して頂いて分かりやすかった。

- ・各認知症に対する病態がわかり、OTが担うべき部分も再確認できた。
- ・各認知症の特徴、対応の違いが理解できた。
- ・ケアではなく治療という考え。現場でもっと大切にしたい。
- ・原因疾患別に症状、対応方法を確認することが出来たのでよかった。
- ・現在の治療として進歩していることなどが学べた。
- ・疾患の特性を学ぶことができ、OTとしてアプローチできる場所と、その方法を学ぶことができた。
- ・疾病による対応の違い、特徴を教えてもらい良かった。
- ・専門職や一般の人にも分かりやすくポイントを絞っておりよかった。
- ・早期に関わることで、予防することができ、在宅でも長期間見て行けることを改めて感じた。
- ・治療的視点があつてのOTのエビデンスありと思った。
- ・とても興味をもて、今後の課題を再確認できた。
- ・とてもわかりやすい講演でした。この先生の講義はもっとゆっくりと時間をかけてみたいなあと思いました。また、医師からの目線で認知症についての話を聞くことが出来、今後活かしていきたいです。
- ・とてもわかりやすい内容と進行。OTの具体的な介入状況も話されており、一般の方にも伝わったと思う。
- ・とてもわかりやすかった。
- ・とてもわかりやすかった。様々な視点で見ることに繋がっていけばいいと思った。
- ・どの講演も内容がわかりやすかった。
- ・内容がとてもわかりやすかった。また評価、プログラム立案、薬物療法と併用しながらのOTの導入の仕方など参考になった。
- ・認知症という病気に対して改めて、なおかつ具体的に確認することができて良かった。
- ・認知症に関して、熱心な先生の存在に安心した。
- ・認知症について改めて勉強しないといけないと感じた。
- ・認知症についての早期発見、早期治療、そのための正しい判断の大切さを感じた。
- ・認知症の方が、今その段階におられるのかを的確に判断し、それに応じた治療を行っていく重要性を学んだ。
- ・認知症の方のDr側の意見が聞け、頭の整理ができた。
- ・認知症のことが具体的な病状、症状、対応が違うことがわかった。
- ・認知症の診断とアプローチについて理解できた。またOTからDrに対して認知症に対する意見を言うことの重要性が分かった。
- ・認知症の正しい原因疾患の診断がとても受容であることが理解できとてもわかりやすかった。認知症患者様へのプログラム内容の検討に非常に役立つ話が聞けて良かった。
- ・認知症の病態や治療など分かりやすい内容で、臨床において家族への説明などの際、参考にしていきたい。
- ・認知症を知る医師が増えると良いと感じた。先生のような医師がコメディカルと連携していく上でたくさん増えるといいと思った。

- ・病変や対応の仕方などが聞け、認知症の理解につながったと思う。
- ・薬物療法に頼らず、認知症を症状からしっかり見ていく視点について、医師の側から説明があり理解できた。
- ・理解しやすかった。説明が分かりやすく、頭に入りやすい。知識として知らないことも多く、勉強になった。
- ・分かりやすい説明であった。
- ・分かりやすかった。(他2名)
- ・分かりやすく、噛み砕いていてよかった。薬剤などの治療の新しい情報を知ることができた。

【短所】

- ・医師への理解を高めるにはどうしたらよいか話を聞きたかった。
- ・一般市民の方には難しかったように感じる。予防についての方法を知りたかった。
- ・一般の方には難しいのでは。
- ・時間が短い。
- ・初期の対応だけでなく、それ以降の対応の話も聞きたかった。
- ・スライドの資料が手元にあるとよかった。
- ・早期発見後の対応についてもっと話が聞きたかった。
- ・短時間の話だったのでもう少し詳しく聞きたかった。
- ・出来る範囲で良いのでスライドの資料がほしかった。
- ・認知症を抱える人の思いや地域で暮らすためについての話をもっと聞きたかった。

Ⅷ. シンポジウム「認知症者と地域で暮らす為の取り組み」について、該当する箇所に○を付けてください。

1. 良い	36 名
2. やや良い	14 名
3. 普通	5 名
4. やや悪い	0 名
5. 悪い	1 名

【長所】

- ・NHK の番組制作を通しての住民としての患者さんの声、生活の声を聞いてよかった。
- ・NHK の山下さんの話は新鮮で興味を持って聞くことができた。地域という認識が広がった。
- ・OT以外の意見を聞いて良かった。
- ・OT 以外の方々の意見が聞いて良かった。
- ・OT 以外の方の話聞き、襟を正す機会にもなった。
- ・OT以外の視点での話でとても勉強になりました。
- ・OT だけでなく他職種の意見も聞いて、もっと地域に出ていけないといけないと思った。
- ・OT についての理解が低く、自分たちで啓発するなど考えなおさないといけないことも多く感じた。
- ・OT の課題が見えたシンポジウムだった。OT 以外の分野からも話が聞いて良かった。
- ・OT はなかなか地域にでていけない状況だということ認識した。さまざまな職種の方、家族の方が認知症に対して、オープンに身近に考えていることが分かった。
- ・OT は認知症本人には必要とは思いますが、本人や家族、地域からはどのくらい必要とされているのか考えなければいけないと感じた。
- ・OT よりも家族や認知症に関わっている方々の方が対応法など詳しいと感じ勉強になった。
- ・池田さん、山下さんの話を聞いて、OT と当事者が考えている「地域」に差があることに気づかされた。他職種からの視点を知ることの大切さがわかった。
- ・今まで自分たちが関わってきた方向とは違う角度から見た認知症の方の姿が分かった。
- ・いろいろな取り組みや他職種からの視点なども知れてよかった。地域をつくる地区システムをもっと一般化して OT もどんどん病院から出て行ける、患者、家族のすぐ傍により添えるOT となっていかなければと感じた。今回認知症は早期発見早期治療、また地域サポーターが鍵となり今後、その方の家族の生活が大きく変わることが大切という印象を受けました。地域に戻れない病院施設を生活の場とする重度の方に対してのアプローチ、考え方なども今後機会があれば集会などを開催してほしいと思いました。
- ・いろいろな分野の方々の取り組み、考えが聞いて良かった。OT の世界だけでは狭すぎる。もっともっといろいろなところを見たり繋がったりしないと、と思った。OT 自身から動いてOT のことを知ってもらいたいと思った。
- ・大牟田市の取り組みはすごい。勉強させていただきたい。

- ・大牟田の取り組みから得ることは多かった。
- ・家族の方、NHKの方。違う視点(視野)での話が聞けて良かった。現在の「認知症」のあり方、また今後の「認知症」に対するOTの姿勢(方向性)が見えて気がして良かった。
- ・行政、家族、メディア、OT、それぞれの視点から取り組み、課題の提示、それをもとに日頃の業務のあり方を最高していきたいと思えた。
- ・行政の取り組みが積極的になされており素晴らしと感じた。
- ・行政や家族、報道、OT、色々な角度から話が聞けてよかった。
- ・ご家族や地域の方がOTに求めている事、また地域で自分の知らないようなOTの取り組みを知り、とても勉強になった。
- ・様々な視線からの考え、活動を知ることができた。
- ・様々な視点からの取り組みの様子がきけてよかった。OT に何ができるのか、もっとアピールしていくことや実践の積み重ねの重要性を痛感させられた。
- ・様々な地域での活動がきけてためになりました。OT という職業の啓蒙活動もどんどんしていかななくてはと思った。
- ・実際の地域での取り組みを写真をふまえて紹介して頂いた所。介護者の立場からOTへ必要なこと、メッセージを頂けたこと。
- ・若年認知症の方々への OT としての関わり方、参考になった。また地域にも OT としてもっと外に働きかけなくてはいけないと思った。
- ・写真などを通してそれぞれの表情などを診ることが出来たので良かった。
- ・ジョイントの活動内容が分かった。役割や仕事によって生きがいの存在価値を見出していきたいと思った。
- ・ジョイントの取り組みを参考に作業を振り返っていきたく感じた。
- ・ジョイントでの OT の視点での運営が見れてよかった。
- ・その人の状態、能力にあった活動提供をする必要性を考えさせられた。
- ・それぞれ具体的な説明で良かった。
- ・他職種からのOTIに対する課題を知ることが出来た。
- ・多方面からの意見が聞けてよかった。御家族の本音、NHK の方の「OT に会えなかった」を聞き、これから積極的に動かないと痛感した。
- ・地域での様々な取り組みや工夫など知れて良かった。視点が広がるいい機会になった。
- ・地域とよく使っていたが、これからの地域のあり方を考えるきっかけになった OT が関わることの重要性も感じた。
- ・地域の取り組みの工夫、連携の取り方は参考になった。特に徘徊ネットワークには、連携の大切さを学んだ。
- ・地域のネットワークについての話では行政など全く今まで知らなかったが学ぶことが出来て良かった。また、家族の声を聞くことが出来、OTとして今後の取り組みを改めて考えていかなければならないと思いました。
- ・違ったところでも活動が同じ職種以外での認知症との関わりなどが聞けて参考になった。作業療法士とずっと地域に目を向けて関わっていかないといけないと思った。
- ・認知症に対しての、いろいろな立場からの取り組みを学ぶことができた。
- ・話の幅が広く良かった。
- ・人と人とのつながり、地域のつながりの大切さを感じた。
- ・まだまだ自分たちが地域に出ている現状がわかった。
- ・もっともっと伝え、広げていかないといけないと思った。
- ・森さん、山下さんの話では、OT がまだまだ地域に出ていることを痛感した。求められている以上にもっと発信していく必要を感じた。
- ・森先生に「認知症の方にウソをついていいよ」と言われた時に少し勇気づけられた。入浴が嫌いな方にちょっと来てというふうに入浴とは言わず入ってもらうこともあるので今日の話聞いて安心した。
- ・若年認知症の方の家族支援について試行錯誤しているが、共に関わっていくスタッフとの共有体験の大切さを学び参考になった。



【短所】

- ・OTとして地域にどう参入していくか、今後どうアピールしていくか必要性を感じた。
- ・大牟田市の資料が欲しかった。
- ・時間が超えて長かった。→せっかく良いと思ったことも疲れてしまっただけでは意味がないのでは？
- ・時間内に終わらなかったこと。帰りの交通機関に間に合わないかもしれません。
- ・時間配分が気になりました。
- ・配布されている冊子にメモができるページがあるとよかった。書き込むところが少ない。
- ・プレゼンが長く発展的なディスカッションが少なかったこと。

第14回全国地域作業療法研究大会に参加して

介護老人保健施設 さるびあ苑
作業療法士 田之上 友彦

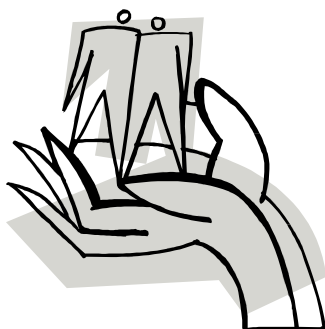
2月28日、3月1日に佐賀県のサンメッセ鳥栖で開催され参加しました。2日間に渡り「町で生きる人々」～認知症を抱える人とともに暮らす～というテーマに沿って特別講演、教育講演、シンポジウムと地域で必要な作業療法士の役割を勉強することが出来ました。

特別講演では「認知症になっても心は生きている」のテーマで当事者の江島豊彦先生より認知症になっても社会(住み慣れた地域)でどう暮らしていくか、作業療法士や(オアシスクラブ)の方々の援助内容などの体験談をもとに講演して頂きました。講演最後に流れたオアシスクラブの歌がとても印象的でした。

教育講演・市民公開講演では熊本大学大学院医学薬学部研究部 脳機能病態分野 教授の池田学先生が「認知症治療の現状と地域で暮らす為の視点」をテーマに、作業療法士が地域で出来ること、地域市民が地域で出来ることを講演して頂き、現代の認知症の服薬状況や認知症の分類に沿ったリハビリテーションのあり方など講演して頂き、認知症のリハビリの視点や幅が広がりました。

シンポジウムにおいては、「認知症者と地域で暮らす為の取り組み」について、地域で出来る事業報告や家族の思い、認知症の番組制作を通して見えてくる地域の必要性、認知症者への就労型・社会参加活動など多方向の専門性を活かしたシンポジウム内容で、専門職同士、御家族様との連携が地域で生活するためには必要不可欠であることがわかりました。

地域で従事する一員として、この2日間の学術集会で認知症者の心の声、そして地域の特性を活かした援助など作業療法士が明日からどのように地域で認知症者の方と寄り添っていく事を学ぶことが出来ました。施設に戻って地域で認知症者・御家族様と障害ばかりではなく、その人らしさを求め、寄り添い日々勉強をしていきたいと思えます。講演をして頂いた先生方、そして学術集会のスタッフの皆様誠に有難う御座いました。



平成20年度 第2回理事会 議事録(抄)

日 時：平成21年2月28日(土) 10:00~11:30

場 所：サンメッセ鳥栖 (佐賀県鳥栖市)

出席者：近藤・比留間・高田・陣内・川本・倉富・高木(記録：立花)

【議事】

1. 代表挨拶

2. 議題

1) 平成20年度事業報告ならびに決算報告

(1) 第14回学術集会報告

倉 富：今回は、二日間認知症中心の内容となっている。

セミナー1では、軽度の認知症の方の支援について、セミナー2では中度・重度の認知症の捉え方で、二日目には当事者の話をさせていただき、治療として池田先生に講演をお願いしてある。

また、大牟田市が障害対策としてすぐれており、徘徊者のチェックを町づくりにて行っていることから講演依頼している。

参加者は現在133名、その他、電話連絡等もあり増減はある。

準備金は1,179,240円、収入は830,000円、支出は1,292,579円、その他空調代など当日支払い分もかかるため、1,400,000円程度の見込みである。収入案の830,000円では不足する。

陣 内：収入は増えるのか？

倉 富：非会員が会員になると入会金分が事務局での処理となるため、入会者が増えると増加は見込めない。

陣 内：次年度繰越金にて、補充するしかない。

倉 富：二日目の市民公開講座は、予定していた会場が変更になり、240名の定員である。現在参加者が140名なので、一般の参加者はあまり入らない。二日目の新聞には案内を掲載させていただいた。

承認

(2) 研修会の件

高 木：今年度、都城にて開催し参加者数は57名であった。

「地域生活支援のための作業療法実践技術習得のための研修会 企画(案)」(別資料参照)のテーマ2, 5, 6, 7は実施済みである。

近 藤：しばらくは都城で継続開催の予定か？

高 木：3回目までは都城での開催と思われる。

近 藤：交通のアクセスが悪いのではないかとと思うが、良い内容であれば場所に関わらず集まるとは思うが。

陣 内：参加者はどの辺りから集まったのか？

高 木：ほとんど九州であったかと思う。

陣 内：プログラムからいくと、今年度を基礎コース、来年度が応用コースなので、同じ場所でも良いかと思う。運営に余力があれば、基礎コースを様々な場所で行ったほうが良いのかもしれない。これは次回理事会で検討する必要があると思われる。

承認

(3) ホームページ及びニュース発行の件

高 木：ホームページは年間5回程更新。ニュースNo16号も掲載中である。

今回はニュースをウェブ上で発行、研修会案内と合わせてホームページへ誘導のためハガキは2回郵送した。

比留間：会費の回収はどうしているのか？

高 木：学術集会抄録誌と共に次年度分までの未納額を記載した振り込み用紙を送付した。

比留間：会員に入ったことが、手元に紙面が届くことで分かったほうが良いかもしれない。会員証は更新の件もあるので、難しいかもしれないが、ホームページだけでは開かない可能性もある。

近 藤：ウェブ上にニュースがあることを知らせれば良いと思う。

高 木：研修会の案内も含めて、1度はニュースを発行できるよう検討する。

今回は4年未納者までには送ったが、1万円以上の未納者には送っていない。

陣 内：会員数は600人程、その中で450名程度に送っており、その中にも未納者がいる。一度未払い

納入金の整理を行いたいので、次回理事会に未納者及び未納金の資料を提示する。

承認

2) 平成21年度事業計画ならびに予算案

(1) 学術集会開催の件

① 第15回学術集会開催の件

高木：第15回学術集会は、(株)シダーの座小田先生を大会長として開催予定である。

座小田先生が今回欠席のため、代わりに説明させていただく。

テーマは「ひとりを支える作業療法のわざ」で、予定講師は、吉田隆幸先生、吉田誠治先生、江原公洋先生となっている。

場所は、福岡県内で行うことは決まっている。次回理事会までに、場所及び時間を決めていただくよていである。

例年通りであれば、日時は3月6、7日または、2月27、28日のどちらかになると思われる。3月6、7日だと学校の卒業式もあると思われるので、できれば2月27、28日に調整していただきたいと思う。

比留間：テーマとしては良いと思う。

近藤：吉田先生には、診療報酬が始まる前から訪問していることを若手に伝えてほしい。

江原さんは、もともと看護師であったことから様々な視点からOTが語れると思う。

② 第16回学術集会開催の件

近藤：長崎はどうか？

陣内：15回の候補として調整したが、難しい様子であった。全国学会があったからかもしれない。

近藤：熊本がいいのでは？地域作業療法研究会発祥の地なので、そろそろ熊本に戻ってみては？

高木：広島はいかがでしょう？

近藤：九州のほうが良い。九州外で行った場合は、なかなか人が集まらない傾向ある。

陣内：16回は長崎又は高田先生に大会長をお願いして、熊本でということにしたいと思います。

長崎には吉田先生から連絡をしていただく。

承認

(2) 研修会開催の件

高木：次年度は7月11日、12日に都城ウェルネス交流プラザにて開催予定。

今回は、応用コースとなります。

- 1日目 ・呼吸・循環器疾患等内臓疾患の管理
- ・疼痛・転倒・骨折の防止・運動機能の管理
- ・不穏・徘徊等の問題行動の対応方法と指導方法

- 2日目 ・地域作業療法効果検証法の実践
- ・事例検討（ワークショップ）

高田：基礎コースを受けないと応用コースを受けることができないのか？

高木：大会長に確認をしているわけではないが、制限を設けてしまうと参加者が少なくなってしまうことが懸念される。

高田：一日目の内容であれば、そこだけ聞いても分かると思う。

後々は、専門作業療法士となるのか？

陣内：日本作業療法士協会のなかでは、地域というのは挙がっていない。SIG認定であればできる。

ここで、実績を残していくことで、協会から我々に依頼が来る可能性も無してはないと思われる。

高田：研修会の講師の件で、PTが講師の候補として挙がっているが、OTのほうか望ましいのではないかとOTからの視点が必要だと思う。他職種を入れる意図があれば問題ないが。

高木：確認させていただく。

承認

(3) ニュース発行の件

陣 内：以前はニュースを郵送していたが、この件でご意見を伺いたい？
手元に紙媒体のものが届いたほうがいいだろうか？

高 木：学術集会及び研修会の案内も含めて、一度紙面での発行を予定している。

比留間：学術誌に、第1回からのテーマと大会長などの歴史と規約を載せて発行してほしい。

陣 内：了承した。

承認

(4) 理事等役員の承諾の件

高 木：平成20年の3月31日までの役員の承諾は得ている。ただ、ここ数年参加なされていない理事もいる。対応を検討して頂きたい。

近 藤：役員に任期はあるのか？任期を規約に載せるべきである。
普通は2年任期で再任は妨げないという形になるかと思う。

陣 内：規約の訂正を行い、推薦という形をとらせていただく。

承認

以上で理事会を終了した。



【 事務局より 】

H20年9月に実施された監事意見書を以下に提示します。

監 事 意 見 書


日本地域作業療法研究会
会 長 古川 昭人 様

私達は、平成20年4月1日から平成21年3月31日現在までの会計年度の本研究会の財務諸表および収支計算書を監査いたしました。

財務諸表および収支計算書の監査に当たっては、私達が必要と認めた監査手続きを実施致しました。

監査の結果、私達は、上記財務諸表および収支計算書が適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成21年 9月 8日
日本地域作業療法研究会 監事

中島雪彦 

平成21年 9月 9日
日本地域作業療法研究会 監事

木村伊津子 

【 事務局からのお願い 】

連絡先（所属）に変更があった会員の方は、下記の変更届をコピーして必要事項をご記入の上、事務局（熊本リハビリテーション学院 FAX 096-389-1135）まで、郵送またはFAXにて連絡して下さい。
発行物の郵送やご案内などに支障をきたしますので、ご協力をお願いします。

----- 判別 -----

日本地域作業療法研究会事務局 高木行（熊本リハビリテーション学院 FAX 096-389-1135）

変 更 届

異 動	退 会	氏名変更	その他
会員氏名			
旧連絡先 (所属名称)		新連絡先 (所属名称)	
新郵送先 (所属住所 ・TEL・Fax)	〒		



日本地域作業療法研究会会則

第1章：総則

(名称)

第1条：本会は、日本地域作業療法研究会と称す。

(事務局)

第2条：本会は、事務局を熊本市小山2丁目25-35、熊本リハビリテーション学院・作業療法学科内に置く。

(目的)

第3条：本会の目的は、地域作業療法に関する理念・学問・技術など科学的基盤に基づき、研究・研鑽を深め、その成果の発表、情報および意見の交換の場とし、作業療法士の学術技能の向上を図るとともに、在宅ケアの効率的・効果的推進に資することを目的とする。

(事業)

第4条：本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 地域作業療法に関する学術集会の開催に関すること
- 地域作業療法に関する研修会、講習会の開催に関すること
- 地域作業療法に関する調査研究に関すること
- 地域作業療法の普及指導に関すること
- 関係団体・機関との提携交流に関すること
- その他、前条の目的を達成するために必要と認められること

第2章：会員

第5条：本会の会員は、次の通りとする。

- 正会員 本会の目的に賛同する作業療法士、その他の者
- 賛助会員 本会の目的に賛同し、援助する個人又は法人

第6条：会員は規定の登録事項を会員名簿に登録する。また、登録事項変更の時はその旨事務局まで届け出ることとする。

第7条：会員は議事録および会計簿の閲覧を求め、これに関する説明を求めることができる。

第8条：会員は規定の会費を納付する義務を有する。

第9条：正当な理由なくして会費を3年以上滞納したときは退会とする。

第3章：機関

第10条：本会は、下記の機関の構成により運営される。

- 総会
- 理事会

第11条：会議は総会、理事会とする。

第12条：総会は会員総意の標示機関であって、本会運営の基綱を決定する。

- 定期総会：毎年1回開催する。
- 臨時総会：理事会においてその必要を認めたとときに行う。

第13条：総会はこの会則に規定するもののほか、次の事項を議決する。

- 事業計画の決定
- 事業報告の承認
- 予算および決算の承認
- その他、本会の運営に関わる重要事項

第14条：理事会は、理事をもって構成し、次の事項を決議する。

- 総会に付議すべき事項
- 総会により付託された事項
- 総会で議決した事項の執行に関する事項
- その他、総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

第4章：役員

第15条：本会は、下記の役員を置く。

- 顧問 若干名
- 代表理事 1名
- 理事 8～15名
- 監事 若干名
- 事務局長 1名
- 事務局委員 若干名

第5章：会計および庶務

第16条：本会の諸経費は、年会費および研修会等で得た収益をもってこれに充てる。

第17条：本会の会計年度は、毎年4月1日より始まり、翌年の3月末日をもって終わる。

第6章：付則

第18条：本会会則の改正は総会の承認を得なければならない。

【研究会等の開催に関する事項】

地域作業療法研究会学術集会等(全国・地区別)を年1～2回開催する。

会長を理事会において選出し、総会の承認を得る。

会期、場所に関しては学術集会会長に一任する。

関連団体・機関・一般等を対象とした研修会・講習会等の開催については理事会で審議し、決定する。

【会費に関する事項】

年会費は2000円とする

改訂

会計年度(平成14年度総会時承認)

会費(平成14年度総会時承認)

役員(平成17年度総会時承認)

事務局住所(平成17年度総会時承認)

名称変更(平成17年度総会時承認)

